



松徳会 日本女子体育大学

東京支部だより

No. 34

2022年4月30日発行



オリンピック・パラリンピックに思う 東京都支部長 木津 美佳

爽やかな季節になりました。東京都支部会員の皆様におかれましては、元気にお過ごしのことと存じます。昨年はTOKYO

2020 オリンピック・パラリンピックが1年の順延を経て開催されました。

1964年以来半世紀を超え再び日本での開催でした。母校卒業生や現役学生の日本代表として出場し活躍されました。また、多くの学生が大会運営スタッフとして協力しました。

コロナウイルス対策のため無観客開催となりテレビ観戦になりましたが、テレビ観戦の良いところも

ありました。テレビ画面には選手の喜びや落胆の表情が捉えられ、競技に挑む姿に大きな感動を覚えました。今年は冬季北京オリンピックも開催され、夏季・冬季オリンピック・パラリンピックと続きスポーツの大きな発信力を実感しました。これからも母校のスポーツ発信力を願い支部活動を続けてまいります。

東京都支部の活動は、毎年会員の皆様からの会費で活動、運営しています。引き続きのご支援と新たなご支援、ご協力賜りますようお願い申し上げます。

まだまだウイズコロナの中ですが、今年こそ健美祭が開催され東京都支部として参加でき、会員の皆様とお会いできることを願っています。



女子大生と共に

研修会館管理人 半田 恵美子

東京都支部会員の皆様、コロナ禍の日々お変わりなくお過ごしでしょうか。

松徳会研修会館管理人在籍中は、さまざまなお心遣いを賜りまして、心より御礼を申し上げます。

1年延期の東京オリンピック開催には、特別な思いで観戦応援をいたしました。

大変幸運なことに昭和39年開催の東京オリンピックは、私は故郷の函館にて中学生時代での思い出になります。特に印象に残っていますのは、大日紡績工場の女子バレーチームからスタートしました「東洋の魔女」たちでした。強烈なサーブを回転レシーブで受ける姿に驚き、勝ち進むたびにテレビの前で熱く応援し、翌日学校で回転レシーブを真似たものでした(笑)。

縁があり、私は某私立女子大学女子寮の寮監として25年女子大生と共に過ごしました。

夜、門限ギリギリに部活より汗まみれで疲れた様子が帰寮する学生たちを見守ってまいりました。

また、研修会館にては部活の合宿、全国から大会出場前の強化合宿の学生たちと共に過ごしました。大会当日の朝早く、日々の鍛錬努力の成果を祈りながら見送りました。

また、全国で活躍されておられる卒業生が、ご指導されている学生たちを引率されて研修会館へ宿泊に来てくださり、その後の交流も継続されております。

地区大会、全国大会、オリンピック大会、どの大会にも出場選手の日々の努力には感動と元気をいただきます。

人生で二度の東京オリンピック大会開催を経験された大勢の皆様も、さぞや感激の年になられたことと思います。

日本女子体育大学にご縁をいただきましたことで、アスリートを観る目、競技大会を観戦する思いが変わりました。改めて感謝しております。

母校に想いを寄せて

日本女子体育大学前教授
現キャリアセンター教職アドバイザー

山下 敬緯子



東京都支部の皆様におかれましては、with coronaの生活が日常となり、ご自身の感染予防は元よりご家族、職場等での様々な対応に腐心されていらっしゃると思います。

私こと、令和3年度末、本学の勤務を終え、退職いたしました。その後、少し

猶予をいただきましてから、6月よりキャリアセンター付き教職アドバイザーとして現役学生、卒業生の支援をさせていただいております。

平成28年3月末東京都公立学校教員退職後、本学の教員として5年間お世話になりました。母校の学び舎に通う機会が再び訪れるとは想像もしておりませんでした。後輩の学生に「夢を叶える」ため、母校だからこそ、お引き受けしました。

私は昭和49年本学に入学し、新体操部に出会い、4年間全うできたこと、3・4年次に運動生理学研究室の配属を志願し、学べたことが自分軸を仕立てていただいたものと感謝の気持ちでいっぱいです。卒業後、TV体操実技者と私立光塩女子学院高等学校の講師を兼務し、27歳の時、東京都公立学校教員に採用され、定年まで34年間都立高校に勤務しました。教諭歴4校17年、その後教育管理職歴2校6年副校長職、3校11年校長職を務めました。振り返れば、教員人生そのものでした。

本学は、「保健体育科教員をめざす」志をもって入学してくる学生が少なくありません。しかし、女子保健体育科教員枠は今も昔も変わらず少なく、採用選考最終合格に至るために高倍率を突破しなくて

はなりません。現在、全国およそ300大学で保健体育の教員免許を取得することができる時代です。自身の学生時代とは隔世の感があります。

本学は「女子体育大学」の看板を背負っており、将来教員になる、ならないにかかわらず、幼児教育・体育・スポーツ・ダンス・健康と幅広く、奥の深い専門性を身につけた上で巣立っていく学生集団であることに古今変わりありません。各分野の指導者の役割は、人々に幼児期からのさまざまな運動・スポーツ・ダンス等の経験を通して、成人後も生涯にわたり身体を動かす習慣の継続に繋げることです。人生100年時代、健康寿命をいかに延伸させていくか、本学はこの役割を果たす有能な人材を全国に送り出す使命と責任を負っています。今年度、創立100周年を迎える節目に今一度二階堂トクヨ先生の草創期の理念に立ち返るとともに、本学の存在価値と未来への展望を皆様と共有できることを願っています。

言うまでもなく、世界中の人々がコロナ禍に遭遇しました。これまで当たり前の生活が一変し、このことによって、人との繋がりの大切さとともに対面でなくとも日常のあらゆる活動の方法に変化が生まれました。児童、生徒、学生の授業はもとより、諸会議やさまざまなイベント、交流の方法をオンライン等で開催することも当たり前になりました。全国組織である松徳会の活動のあり方もコロナ禍がもたらした生活の変化に対応し、柔軟に変えていく必要があると思います。

最後に会員の皆様が自分事として、本学100周年の節目に松徳会の存在意義を再確認され、大学のさらなる発展に貢献できるサポートを具現化するための救世主になろうと声を上げていただくことを心から願っています。

チャレンジャー

愛犬たちと 第2の人生スタート 〈ペットシッター〉

昭和 52 年卒 蘇武 秀子

お忙しい中インタビューに答えていただきました。

▶大学卒業後どのような仕事をされていましたか。

1977 年(昭和 52 年) 3 月、日本女子体育大学を卒業し、私立駒沢学園女子中学・高校に勤務し、2020 年(令和 2 年) 3 月に 43 年間の教員生活を終わり、今は、ペットシッターをやっています。

教員の仕事が終わる 3 年前から、ボランティアとして自宅で犬を預かっていました。

▶なぜペットシッターを始めることになったのですか。

保健体育教師も好きなスポーツから仕事に結びつき、最後まで続いたと思ったので次のお仕事を考えた時、好きなワンちゃん達のお世話をしたいと考えました。

小さい頃から自宅には、常に犬・猫・鳥・羊などがいました。何よりも、純粋・素直にこちらを見てくれる犬が大好きです。

▶ペットシッターのお仕事とはどんなことですか。

飼い主さんからお預かりをするのは、1 泊から 1 週間まで色々です。アレルギーとかがある子は、食事や薬を持参していただきます。

1 日 4 回の散歩をします。朝・昼・夕方・寝る前です。1 回に多くて 3 匹つれて散歩です。1 回 30 分くらいですが、寝る前は 10 分位です。



▶大変なことはどんなことですか。

犬を預かる初日は、緊張してご飯を食べなかったり、排便をしなかったりすることです。家の中に防水シートを敷いていますが、他のところで排尿をされたことがあるので、そういう子にはおしめをします。また、散歩の時に他の犬に吠える子は困ります。

▶やりがいや楽しみはどんなことですか。

沢山の犬と知り合って慕ってくれることが嬉しいです。歩かなかった子が日が経つにつれ、他の子達と楽しそうに歩く姿を見られる事で本来の犬の群れを感じる事など沢山あります。また、撫でていたりときやマッサージをしてあげると幸せな顔をする事にやりがいを感じます。

私の特技は、犬がうんちをする時、地面に落とさないで手の上にペーパーを載せてキャッチすることです。

▶これからやってみたいことはありますか。

教員定年退職後に旅行とか行きたかったのにコロナ禍で行けないので、行けるようになったら、日本全国をまわりながら、桜を追いかけて、紅葉を観ながら美味しいものを食べ歩きたいです。



オリンピック・パラリンピック

今昔物語

1964年アジアで初めて東京で開催されました



2020 東京オリンピック ・パラリンピックから想う

昭和41年卒 津田 和子

1年遅れの開会式が7月23日に行われた。聖火台に灯が灯り、ドローンで夜空にオリンピックマークが浮かび上がった時、胸が熱くなり57年前の東京オリンピックがよみがえった。

前夜祭で、戸倉ダンス「六段」を踊った。炎天下で膝の痛みに耐えながらの練習。当日は、観客席の後ろから秋晴れの空に色とりどりの風船を飛ばした時の感動。

今、私は地域の人達と体操を通しての交流を大切にしている。パラリンピックから沢山の勇気ももらって……。

泥塗りの前夜祭

昭和42年卒 小田 康子

1964年東京オリンピックの時、私は大学2年生、今考えてみてもオリンピック一色の2年間でした。1年生の前年祭から始まり、2年生10月10日の開会式まで、次から次へと行事に追われ、その間、戸倉ダンスマスゲームを覚える毎日。そして発表。

前夜祭当日の東京は雨、夜の発表がどうなるのかと心配しながら会場の後樂園へ集合、ところが、夕方から雨は上がりました。あの水溜まりのある球場での演技となりました。(まだドームが無い)泥んこの中で一糸乱れぬようにみんながんばりました。チュニクもダンス用靴も、ひどい状態で靴を泥の中でなくした人もいたようです。

会場に観客はいたかどうか定かではありません。学生の心に残ったのは、やり遂げたという満足感と参加賞のバッジでした。

しかし、明日の風船上げのために汚れたチュニクと靴の手入れがあり、寮に急いで帰りました。



前夜祭「六段」 写真提供 本学学術情報課

ホストファミリー

昭和33年卒 宮崎 かね子

東京都知事よりホストファミリーの依頼があり、きびしい審査を通り、アメリカの水泳の選手の家族とドイツの女性を一週間ほどお泊めました。

毎日、杉並の自宅から国立競技場や東京都体育館に送り迎えをしました。当時私は、二人目の子供を身ごもり、臨月に近い大きなお腹はハンドルに着きそうで心配しながら運転をしました。

その年は、水不足でしたがなんとか乗り越え、無事終わることができ、東京都知事の東さんから感謝状と五輪の記念メダルをいただきました。

その後、ドイツの女性は、日本が好きになり2年半ほど我が家に居候をしていました。



写真提供 小田康子様



参加賞のバッジ

夢のような出来事

昭和 43 年卒 高井 ゆき子

当時高校生でバレーボール部員だった私は、オリンピックのバレーボールの決勝を見に行くことができた。優先は3年生だったと思うが、3年生部員が少数だったので、2年生にもチケットが回ってきたためだった。今考えると夢のような出来事である。

会場は、駒沢公園競技場の屋内体育館。この建物は、オリンピックのために建設されたものなので、真新しい。

10月23日夜、10時頃試合開始。試合の内容も良く覚えてはいないが、試合は3-0で日本が勝利した。喜びに沸いている日本チームに対してソビエトの監督(ギビ監督?)は立ち上がれず座ったまま大きなタオルを持って泣いていた。東洋の魔女と呼ばれた6名と鬼の大松と呼ばれていた監督が意外と親しげにコミュニケーションが取れているように感じられたことを覚えている。

陸上競技観戦の思い出

昭和 45 年卒 小林 祐子

高校2年生でした。3年生の先輩達が陸上競技の補助員として、白い帽子とユニホームで活躍する姿がさすがしく思い浮かびます。

競技では、100M男子準決勝でボブ・ヘイズが9秒9の世界新記録?をマークし、会場が騒然となったこと。筋肉隆々弾丸のごとくテープを切った姿は、鮮明に記憶されています。

棒高跳びの決勝では、夜になってしまい途中で帰宅することになってしまいました。



ワッペン提供 豊田孝子様

TOKYO 2020

新型コロナウイルス感染症拡大のため
1年延期になり、2021年に歴史上初めての
無観客開催となりました。



聖火ランナーに参加して

匿名

千葉市で、東京2020パラリンピックの聖火リレー関連行事に参加しました。

当日は好天に恵まれ、車いすの方や盲導犬を連れている方々と一緒に楽しく走りました。

私は、今年傘寿を迎え、千葉県の大大会組織委員会よりお話をいただきまして、セレモニーに参加できたことが少しでもお役に立てて良かったと思います。

これからも、これを励みに足腰を鍛えて、卒寿!百寿!をめざします。

ボランティアに参加して 国立競技場で活動〈陸上競技部〉

4年 櫻田 翔子

今回、私はオリンピックの陸上競技ボランティアにマージャーとして参加しました。マージャーは、選手の誘導が主な活動でしたが、海外の選手へ英語で誘導するのが難しく、ジェスチャーなどを交えて行いました。相手に言葉が通じず、自分の未熟さを痛感しましたが、この経験から語学をもっと学びたいと感じました。

また、無観客の中、ボランティアとして参加できたことで世界のレベルの競技を生で見ることができ、非常に充実した活動となりました。

TOKYO 2020

新体操（団体）8位入賞



熨斗谷さくら選手 竹中七海選手

東京オリンピックを終えて

大学院生 熨斗谷 さくら選手
五輪でのメダル獲得を目標に、辛く苦しい日々も、仲間と共に走り続けて参りました。

結果には、絶望すら覚えましたが、周囲の皆様を支えられ、今新たな道に進もうとしています。

日本中の応援と団結を感じられた本大会。皆様のご支援ご声援に心から感謝申し上げます。誠に有難うございました。

東京オリンピックを終えて

令和3年卒 竹中 七海選手
改めて東京オリンピックでは、皆様の温かい応援本当にありがとうございました。

地元開催の熱気の中踊ることができて幸せだった反面、演技はとても悔しいものとなってしまいました。

この経験を糧に、今後はパリ五輪に向けてさらに技術、そして人間性を磨き、応援して下さった皆様の心に届くような演技ができるよう頑張ります。

今後ともよろしくお願いいたします。

世界を肌で感じ得たもの

日本女子体育大学准教授 橋爪 みすず先生
今年1年延期となった2020東京オリンピックが開催された。私は新体操競技のNTO（ナショナルテクニカルオペレーター）として、競技会場での審判への対応を中心とする運営に携わらせていただきました。2年前から語学研修をはじめとする準備を重ね、オリンピックの開幕を心待ちにしておりました。

私たちは、8月3日に現地に入り、オリンピックの役員の制服を手にしたとき、オリンピック開催の高揚感に包まれ、緊張が増しました。

会場は、青を基調としたレイアウトで統一され、その中で踊る選手たちは、碧い海の中で泳ぐ人魚のように美しく見えました。

試合は3日間行われ、全世界から予選を勝ち抜いた選手とチームが勝負を懸け真剣に踊る会場は無観客ながら熱気に包まれていました。戦う選手達も支えるスタッフたちも神経を研ぎ澄まし、ミスの許されない状況の中での3日間は、私にとってかけがえない、夢のような時間が過ぎていきました。

今回の経験は、私の指導者としての今後の歩みに大きな影響を与えてくれる経験だったと思います。

重ねて今年は、北九州市で第38回世界新体操選手権が開催され、こちらでも競技運営のまとめ役としてかかわらせていただきました。1年の中で2回もの世界的なイベントにかかわることができたことに心から感謝するとともに、この経験を今後の指導に生かして参りたいと考えています。

松徳会の皆様には日頃のご支援に対する感謝の気持ちを添えてご報告させていただきます。



「パラリンピック 2020 東京大会を終えて」

平成 2 年卒 三浦 真珠

パラリンピック 2020 東京大会に出場した、陸上視覚障害 T12 クラス澤田^{さわだ}^{うらん}優蘭の指導・サポートに携わったのは、盲学校に澤田が入学した時からとなり、16 才で北京パラリンピックに出場しました。

視覚障害者が安全に練習できる環境が少なく、関東パラ陸上競技協会顧問で大学の先輩である廣田博子先生に相談し、大学のグラウンドを使わせていただけることになり、東京大会に向け練習することができました。結果 100m 準決勝進出、走り幅跳び 5 位入賞、ユニバーサルリレー 3 位・銅メダル獲得することができました。

2024 パリ大会でさらなる結果を出せるように継続して指導・サポートをしていきます。グラウンドを使用させていただけた大学には感謝しています。



三浦先生 澤田選手 廣田先生

ボランティア活動を終えて 横浜スタジアムで活動〈ソフトボール部〉

4 年 越路 朋芳

私は、フリーバッティングのボール拾い。ファールのボール拾い。ボールの数を数える。ネット、バッターボックス、ネクストバッターサークル運び。国ごとのボールの入れ替え。飲み物をペットボトルで補充。などの仕事をしました。練習の手伝いや、試合の運営に関われることが出来ました。海外の選手を肌で感じることができ、貴重な体験でした。

4 年 笠井 珠実

海外の選手にボールを渡すとき、片言で「アリガトウ」と言われコミュニケーションが取れたことが

とても嬉しかったです。今回を機会に英語を勉強したいと思いました。

3 年 神永 愛菜

生で試合を観られたこと。その雰囲気を感じられたことは、本当に良い経験になりました。ソフトボールのことだけでなくボランティア活動という役割の大切さを学ぶことが出来ました。

3 年 大枝 葵

練習から、決勝まで毎日ボランティア活動に参加しました。身近に選手の動きや練習を観ることができ、試合での緊張感も伝わる中でのボランティア活動でした。貴重な体験を活かし部活に戻った時、緊張感やスピード感を取り入れていこうと思いました。

3 年 中村 奏

ボランティア活動中、印象に残っていることは、カナダのソフトボール関係者の男性にバッジをいただいたことです。日本語で「オツカレサマデス」と気さくに挨拶をしてくれました。オリンピックを通して、国際交流が出来ました。

3 年 池田 佳生

日本対アメリカの決勝戦もすばらしかったです。前日の三位決定戦で、オーストラリアの選手が必死で戦っていましたが負けてしまいました。今回は、ソフトボールが競技から無くなってしまうので、どのチームも一生懸命な姿に感銘を受けました。部活で練習する時は、オーストラリアの選手の分まで戦おうと心から思えました。



「お台場で燃え続けた聖火」

写真提供 江東区陸上競技会 溝口不二男様

令和4年度 東京都支部総会について

- ◆ 今年の総会は、書面決議とします。
- ◆ ご質問のある方は、お問い合わせください。

バザーについて

◆ 日時 令和4年10月29日(土)
30日(日)

◆ 場所 北館Nゼミ室

- * 新型コロナウイルス感染状況により中止になることもあります。
- * 大学のホームページでご確認下さい。

令和3年度 決算報告

令和3年度 東京都支部 決算報告
令和3年4月1日～令和4年3月31日
単位:円

I 収入の部

科目	3年度予算	3年度決算	差異	備考
1 会費	280,000	296,000	16,000	148名
2 事業収入	100,000	0	100,000	
3 雑収入	1,000	10,000	0	寄附
収入合計	381,000	306,000	75,000	
前年度繰越金	217,678	217,678	0	
総収入合計	598,678	523,678	75,000	

II 支出の部

項目	3年度予算	3年度決算	差異	備考
1 会議費	61,000	31,400	29,600	
1) 会場借用費	10,000	2,000	8,000	役員会会場借用費
2) 交通費	50,000	29,400	20,600	役員交通費
3) 会議費	1,000	0	1,000	
2 事業費	360,000	307,978	52,022	
1) 印刷費	150,000	118,580	31,420	東京支部便り・振込用紙印刷費
2) 通信費	110,000	164,846	△54,846	東京支部便り郵送料
3) 各係運営費	30,000	24,552	5,448	各部活動費
4) 事業運営費	50,000	0	50,000	
5) 講習会費	20,000	0	20,000	
3 渉外費	13,000	13,000	0	
1) 慶弔費	10,000	10,000	0	健康祭お祝い金
2) 渉外費	3,000	3,000	0	トクヨ先生を顕彰する会年会費
4 需用費	10,000	8,030	1,970	
1) 備品費	1,000	0	1,000	
2) 通信費	3,000	4,920	△1,920	総会資料発送
3) 印刷費	5,000	1,300	3,700	事務印刷費
4) 雑費	1,000	1,810	△810	振込手数料 宅配便
5 積立金	20,000	20,000	0	100周年積立金
6 予備費	162,465	0	162,465	
支出合計	626,465	380,408	246,057	
次年度繰越金	0	143,270	143,270	通帳残 ¥94,264 手元金 ¥49,006

III 積立金の部

定期預金	100周年記念積立金	180,000	ゆうちょう銀行
------	------------	---------	---------

監査の結果、適正であることを認めます。

令和4年4月9日

会計

三浦 栄子

伊藤 聖子

会計監査

志賀 美代

鍋谷 和代

令和4年度 事業・活動計画

日 程	東京支部	松徳会	大 学
4月 3日		令和3年度会計監査	入学式
8日 金		第1回常任理事会(オンライン会議)	
9日 土	第1回役員会・会計監査		
14日 木			トクヨ先生 墓参
15日 金		第2回常任理事会(オンライン会議)	
19日 火		評議員会議案書発送	
30日 土	東京支部だより34号発行		
5月 13日 金		松徳会創立80周年記念誌委員会	
20日 金		第3回常任理事会(オンライン会議)	
28日 土	第2回役員会	清寿先生墓参	
29日 日		新旧理事会	
6月 18日 土	第3回役員会		
25日 土	支部総会:書面決議発送		
30日 木		松徳会報64号発行	
7月 16日 土	第4回役員会		
9月 10日 土	第5回役員会		
17日 土		第4回常任理事会(オンライン会議)	
18日 日		松徳会創立80周年記念誌委員会	
10月 16日 日		会計中間監査	
22日 土	第6回役員会・バザー値付け		
28日 金	バザー搬入	第2回理事会	
29日 土	健美祭バザー	令和4年度松徳会総会・交流会	健美祭
30日 日	健美祭バザー		健美祭
11月 19日 土	第7回役員会		
27日 日		第5回常任理事会(オンライン会議)	
1月 22日 日		第6回常任理事会(オンライン会議)	
2月 4日 土	第8回役員会		
26日 日		第7回常任理事会(オンライン会議)	
3月 4日 土	第9回役員会		
12日 日		第3回理事会(オンライン)	
15日 水			卒業式

※役員会は開催を13:00から16:00とし、場所は日本女子体育研修会館とする。

※新型コロナウイルス感染状況により予定の変更があります。

編集後記

コロナ禍で開催されたオリンピック・パラリンピック。勇気と感動を与えてくれるスポーツの力をお伝えしたいとの思いで、オリンピック・パラリンピック「今昔物語」をお届けいたします。

発行者 日本女子体育大学 松徳会 東京都支部
〒171-0022 東京都豊島区南池袋 3-14-9 木津美佳

TEL・FAX 03-3983-4075
メール kizu@sky.plala.or.jp